

## 日独 ジョイント レクチャー (\*)

### 「日本はスローな社会となるのか～現代日本社会の諸現象と議論」

ミュンヘン大学(LMU) 日本センター エヴェリン シュルツ 教授  
(ハイデルベルク大学の同窓生)

今般、ハイデルベルク大学の同窓生エヴェリンシュルツ教授をドイツから迎え、下記のとおりレクチャーを開催します。

#### 講演要旨:

19世紀以来きわめて多様な近代化・グローバル化のプロセスが、日本社会においても多大な変容を引き起こした。重要な要因の一つは、科学技術的進歩だがこれは人と物の際限なき流動化をもたらすものである。物質的な世界も、精神的な世界も、そして社会的な意味での世界においても一層の「高速化」を経験することとなり、日本の場合も、進歩と成長を不可分に重ね合わせる神話がライトモチーフとなり、それが近代の構成要素となる。

現在の日本社会は、既に経験した高度経済成長の終焉以降の時期にあると見定めたいうえで、高度に発展したテクノロジーに依拠しながらも、同時にそれがもたらすさまざまな圧迫感から逃れたいという欲望を抱えている。本発表では、そこに現われるさまざまな文化現象を紹介しながら、「日本はスローな社会となるのか」という研究のパースペクティブで近代化論におけるスロー化論の可能性を評価する。

ドイツの「Industry 4.0」や日本の「Society 5.0」など第四次産業革命への対応に向け、私たちの未来社会の姿について改めて考える絶好の機会になると期待しております。

どなたでもご参加いただけますので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。なお、レクチャーは日本語で行われます。

記日時： 2017年11月7日(火)  
18:15～19:45(受付18:00～)

会場： 京都大学吉田国際交流会館1階南講義室(吉田南構内)

#### スケジュール

18:15 開会挨拶

18:20 レクチャー

ミュンヘン大学(LMU) 日本センター エヴェリン シュルツ 教授  
(ハイデルベルク大学の同窓生)

「日本はスローな社会となるのか～現代日本社会の諸現象と議論」

19:00 解説

京都大学国際高等教育院 吉田 万里子 教授

19:20 質疑応答、ディスカッション

19:45 レセプション（於：ハイデルベルク大学京都オフィス）

20:30 閉会

司会進行： サビーネ シェンク（ハイデルベルク大学 京都オフィス）  
園部 太郎（京都大学 学術研究支援室）

以上

(\*)日独ジョイントレクチャーは、相互にオフィスを持つハイデルベルク大学と京都大学が両大学の学術交流の深化と発展を記として不定期に開催されるものです。

参加登録は、11月02日（木）までに氏名、所属機関を記載の上、以下のメールアドレス宛ご連絡ください。

参加登録・問合せ先：

ハイデルベルク大学京都オフィス（HUOK）

メール：[info@huok.uni-heidelberg.de](mailto:info@huok.uni-heidelberg.de)

電話： 075-753-5413

講師プロフィール

エヴェリン シュルツ 教授

ハイデルベルク大学を卒業。京都大学に滞在経験があり、現在はミュンヘン大学で教鞭をとる。日本の近現代批評と近現代化セオリー、文化研究と文学研究からの都市研究や都市論議などを研究対象とする。

<http://www.japan.uni-muenchen.de/personal/professoren/schulz/index.html>（ドイツ語&英語）

吉田 万里子 教授

京都大学国際高等教育院教授、専門分野は、労働法、社会保障法。EU並びにドイツ・オーストリアの雇用、社会保障政策と比較しながら、日本社会の変遷と労働・社会法制の相互作用（直近では働き方改革）を批判的に考察している。欧州30年余滞在后、日本に帰国して1年半。

<https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/xP5il>